

『導きの光』 ヨハネの福音書 8章12～20節 2017.10.22(聖日礼拝説教より)

『イエスは…言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』」 ヨハネ 8:12

①闇の中を歩まず…『わたし(イエス)に従う』とは「一緒に歩く」の意。命をくださったお方と、ずっと共に歩む人生がある！しかし多くの方はその方を知らず、闇に迷い込む！『神のうちには暗いところが少しもない(Ⅰヨハネ 1:5)』が私たちには「心の闇」がある！自分の思いを信頼できる人に！私たちの主に打ち明けよう！『闇の中を歩む』とは、神の愛から遠く離れて生きること！その人は「自分が神」となり、自分が良いと思うことをして神に背き、人を裁く！◆姦淫の女を連れてきた者たちは、「自分たちには、この女を裁く権利がある」と思ったが、「1度も罪を犯したことの無い者が石を投げよ」と言われ、初めて自分の罪を知らされ、元の罪の闇へと消えて行った！イエスは、残った女性の罪を暴かず責めず、ただ赦しを告げた(8:11)。8:15『わたしはだれをもさばきません』！この罪の女は、その時初めて、素直に自分の罪を自覚した！自分がどんなに弱く、助けの必要な人間かを知らされた！人は、罪を暴かれて悔い改めることはない！赦されて初めて心に光が差し込み、愛の中で初めて罪を認め、変えられていく！

②いのちの光を持ち続ける…Ⅰヨハネ 1:7『…神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます』。神と交わる者は、隣人と交わりを保つ！イエスの贖いは、信じる者の過去の罪だけでなく、朝ごとに赦しの恵みを新たにし、日々聖める！★「わたしも、あなたを罪に定めない。今日一日、罪を犯してはなりません」との御声を毎朝聞き、どれほど赦され、どんなに愛され、恵まれたかを、朝ごとに知るなら、その日はどんなに神の子の聖さ、明るさ、平和が満ち、隣人を尊ぶ一日となることだろう。神を愛する心と人を裁く心とは共存しない(Ⅰヨハネ 4:20)！思い出そう。あなたが嫌う、その人を、主は命がけで愛され、お互いに平和を保つことを、どんなに願っておられるかを！

★かつては、神もイエスも知らず、自分が何者かも知らなかった…しかし今は知っている！私のために死んでくださった方を！その方が甦られて、今生きて、共に歩まれていることを！世の旅路が終わる時のどこに行き、そこで誰が待っておられるのかを！『わたしは、世の光です』！この光(お方)に導かれて罪の闇から抜け出し、天の故郷を目指そう！